

令和3年度

高等学校用  
内容解説資料

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

# 国語

# 大学入学共通テスト 個別試験

傾向

と

分析

東京書籍

# 入学共通テスト」概要

本年1月29日、大学入試センターより、第1回となる令和3年1月実施の大学入学共通テストについて、大学入試センターのサイトに情報がアップされた。

令和元年6月に出された、以下の2つの文書について、**主に記述式問題に関する事項を削除する形で変更**が加えられている。

- 「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」
- 「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」

## 1 大問数，試験時間，配点

平成29年・30年に実施された試行調査やセンター試験と比較すると以下ようになる。

	試行調査	共通テスト (令和3年実施)	備考
大問数	5問	4問	記述式問題が1問なくなったため、センター試験と同じ4問となった。
試験時間	100分	80分	センター試験と同じ80分になった。
配点	・マーク式問題：200点 ・記述式問題：5段階表示	200点	記述式問題がなくなったため、センター試験と同じ200点となった。

## 2 センター試験と異なる注意すべきポイント

上記の「1」を見る限り、センター試験とあまり変わらない印象があるが、以下に掲げるポイントは、上記文書の中に残されている内容なので、共通テストに向けて引き続き注意が必要である。

### 1 実用的な文章

上記文書によると、大問別配点は、以下のとおりである。

近代以降の文章

2問 100点

古文

1問 50点

漢文

1問 50点

ここでいう「近代以降の文章」としては、**論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章が挙げられている**。過去2回の試行調査では、記述式、マーク式という解答形式の違いはあるものの、実用的な文章のみを出す大問が出されたり、実用的な文章と論理的な文章を組み合わせる大問が出されたりした。

大問数が試行調査から1問減ったことで、**近代以降の文章を出題する大問は2つとなった**。この中で何らかの形で**実用的な文章が取り上げられる可能性がある**。

### 2 複数の文章の読み比べ

先の文書には、「問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する。」とある。これまでの2回の試行調査と同様、**複数の文章を読み比べることが求められる問題が出題される可能性がある**。これは、近代以降の文章、古文、漢文のいずれの分野における問題においても出題される可能性があると考えられる。

# 令和3年以降実施「大学

## 3 会話例／図表などの非連続型テキスト

加えて、先の文書には、全教科に関する「問題作成の基本的な考え方」の項で、「高等学校における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。」と書かれている。これを踏まえて考えると、これまでの試行調査や近年のセンター試験の問題でも出されているように、**先生や複数の生徒の会話例、図表などの非連続型テキストが出される可能性がある**と考えてよいだろう。

### ポイント

#### 基礎的な読解力や知識の重要性は変わらない

記述式問題が見送りになったとはいえ、ここまで記した①～③のように、共通テストには、センター試験と異なる傾向がいくつかあると思われる。しかし、これまでの試行調査問題を見る限り、基礎的な読解力や知識（古典常識や文法事項など）が求められる点については、変わりはないといえるだろう。

こういった**基礎的な読解力や知識を大切にしつつ、①～③に掲げたような新しい問題形式に慣れておくことが共通テストへの対策となる**だろう。

## 3 令和4年以降の「大学入学共通テスト」

ここまで、令和3年1月実施の共通テストについて見てきたが、令和4年以降についてはどうなるのか。以下、現行学習指導要領のもとで行われる令和4年～6年実施の共通テストと、新学習指導要領のもとで行われる令和7年実施の共通テストに分けて記す。

### 令和4年～6年実施の共通テスト

大学入試センターのサイトには、以下のように記されている。

なお、令和4年1月以降に実施する大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの国語及び数学の試験時間等については、毎年、年度初頭に文部科学省が策定・公表する翌年度の大学共通テスト実施大綱に基づき、出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針において定め、お知らせする予定です。

(<https://www.dnc.ac.jp/news/20200129-01.html> 2020年1月29日)

令和4年～6年実施の共通テストの試験時間等について、年度初頭に方針が示されるということは、試験時間等に変更が加えられる可能性がゼロではないことを表していると思われる。

### 令和7年実施の共通テスト

文部科学省は、本年1月15日、「大学入試のあり方に関する検討会議」を初開催した。共通テストでの英語民間試験活用や国語・数学の記述式問題が見送りとなったことを受け、共通テストやそれぞれの大学が行う個別入試について議論が行われている。文部科学省は、月に1～2回のペースで会議を開き、**年内に提言をまとめる方針**である。

この会議は3月末までに既に計4回実施されていて、文部科学省の下記サイトには、**配付資料や議事録も順次アップ**されている。

➔ [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/103/giji\\_list/index.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/giji_list/index.htm)

本会議は、**新学習指導要領のもとで行われる令和7年実施の共通テストを視野に入れたもの**であり、会議の今後の動向に注意が必要である。

# 試験)での動向

大学入学共通テストが実施されるのは令和3年1月からであるが、各大学の個別試験では、共通テストの問題に似た傾向を持つ問題が既に出題されている。

ここでは、大学の個別試験において「**国語**」として出された問題の中から、**新しい傾向を持った問題を取り上げた。**

## 1 評論の読み比べ

### 二つの文章を読み比べて自分の考えを論じる記述式問題

2019年 信州大学 前期(教育) 大問2

出典：石川九揚『縦に書け!』(祥伝社 2005年) / 屋名池誠『横書き登場』(岩波新書 2003年)

日本語の書字方向について論じた二つの文章A、Bを読み比べる。Aは、日本語の文字と文は、天と地を持つ現実の世界を写しとる表現であるとし、そこに日本人の宗教的な心も養われてきたことを説き、日本語は縦に書くべきであることを主張する。Bは、電子メディアの現状等を踏まえつつ、早晚左横書きに統一されていくとしつつも、用途に応じて縦書きと横書き、多様な選択肢のあることが日本語の表現を豊かにすると主張する。全5問のうち、読み比べに関わる問題は3問。

- ① 二つの文章のうち、Aが敬体、Bが常体で書かれていることについて、文体の違いが読者に与える表現効果について説明する問題。
- ② Aの筆者に対して、自分がBの筆者であるとしたらどう反論するか、Bの内容を踏まえて述べる問題。
- ③ A、Bの内容を比較し、二つの文章の筆者が納得すべき「今後の日本語の書字方向スタイル」について、示されたいくつかの条件を踏まえつつ、自分の見解を述べる問題。

二つの文章ともに筆者の主張は比較的捉えやすいものとなっている。それぞれの文章の内容を踏まえつつ、一定の条件を踏まえながら、自分の考えを述べるという解答形式で、解答の文字数は指定されていないが、解答欄から推測すると、**大問にもよるが60字~120字くらいの記述量が求められている**と考えられる。

## 2 非連続型テキスト

### 文章の内容から図を推測し、理由を述べる問題

2017年 千葉大学 前期(国際教養, 文, 法政経) 大問1

出典：今井むつみ『学びとは何か』(岩波新書 2016年)

出題本文は人間の記憶の性質を論じた箇所、問題数は全7問、図版に関連した出題は1問。「C」とも「三日月」とも取れる曖昧な形をした図形を見て、後から思い出して描くという実験についての問題で、小問2つから構成されている。図と一緒に提示された名前が「C」であるか「三日月」であるかで描く図形の形が異なる、という実験結果が本文中に示されており、そのことを踏まえて解答する必要がある。

- ① 「C」「三日月」のそれぞれの被験者が書いた図形を予想し、「両者の違いがわかるように図示」する問題。
- ② 1問目で「描き分けた理由について、本文に即してわかりやすく説明」する問題。

「対比」や「理由」といった関係を踏まえた基礎的な読解力が要求されているが、そうした**内容を図で描いて示すという形式**がある点に注目したい。

# 個別試験(二次)

## 3 評論の読み比べ + 非連続型テキスト

同一筆者による、内容の関連した別の文章・図を読み、  
提示された図に適切な言葉を考える問題

2019年 福島大学 前期 大問1  
出典：八木沢敬『「論理」を分析する』(岩波現代全書 2018年)

出題本文は、論理学における「推論の妥当性」について考察した評論。全6問のうち1問が、図や新たに別の文章が提示されたものになっている。

① 小問の中で、出題本文と同一の筆者が書いた、内容の関連した別の文章が提示される。その文章には複数のヴェン図が用いられている。これを読んで、小問の中で提示された別のヴェン図についてのキャプション部分に適切な言葉を考える問題。

出題本文自体は一つの評論であっても、小問の中で関連する図が提示され、それを解くために、別の文章・図が提示されるという形式に留意したい。また、論理学ならではの内容、論理展開なので、この種の文章を読み慣れていない生徒には、難度が高い問題といえるだろう。

## 4 文学的文章の読み比べ

詩とその詩をめぐる書かれた小説を読み比べて説明する問題

2019年 熊本大学 前期 大問2  
出典：伊東静雄「鶯(一老人の詩)」(『わがひとに与ふる哀歌』所収) / 大江健三郎「火をめぐるす鳥」(『僕が本当に若かった頃』所収)

詩(A)と、それをもとに別の作者が書いた小説(B)とを読み比べる。Aでは、幼かった頃の友人とその思い出や、その友人との再会が描かれ、Bでは、その詩を読んで、似た体験を持つことから強い共感を覚えた「僕」の思いが綴られる。全3問のうち、直接AとBを関連させて答える問題は1問。

① Aの詩中にある「私の魂」という表現について、Bの小説中の「僕」はどのように解釈しているか説明する問題。

評論などの論理的な文章に比べると出題数は少ないが、**文学的文章においても、詩(韻文)と小説という複数の文章を関連づけて記述させる問題が出されていることに注目**したい。二つの異なるジャンルの文学的文章を読み比べることで内容の理解を深めようとする出題は、第2回の試行調査大問3(同一作者による詩とエッセイの読み比べ)とも通じるものがあるのではないかと。

## 5 対談

対談を読んで答える記述式問題

2018年 大分大学 前期 大問2  
出典：石黒浩・大野更紗「特別対談 技術革新と人間の未来—豊かな社会、幸せな社会」(『世界思想』2017年春号所収)

出題本文は、人工知能に関する対談の抜粋のみで構成されている。全4問のうち、内容の読解に関わる問題は3問。

- ① 一方の人物の疑問に対して、もう一方の人物がどのように答えているかを、50字程度で説明させる問題。
- ② 一方の人物の短い応答に関して、前後の文脈を踏まえて内容を説明する問題。
- ③ 傍線部中の指示語の内容を明らかにしたうえで、一方の人物が提示した疑問に対して、もう一方の人物がどのように答えているかの要旨を説明する問題。

対談形式の文章は、共通テストの「マークシート問題のモデル問題例」にも出題されたが、珍しい形式といえる。読解するうえで特別な手法が必要というわけではないが、**疑問とそれに対する応答の文脈をしっかりとおさえられるかがポイント**となる。

## 6

# 古典の読み比べ

## 複数の古典テキストを読み解く問題

2018年 京都大 前期 (文系) 大問3

- ① 『風雅和歌集』 仮名序
- ② 『風雅和歌集』 真名序

『風雅和歌集』 仮名序の本文がまずは示され、傍線部の現代語訳や説明をさせる小問の後に、真名序の一節を示したうえでその意味を仮名序の対応する箇所を参考に説明させる小問が出題された。**古文と漢文という、複数のテキストを関連させて解釈する力が**求められている。

2017年 長崎大学 前期 大問3

2つの漢文と、1つの古文が並ぶ形式。

- ① 【漢文】『列子』 黄帝篇
- ② 【漢文】「①」に関連した漢詩  
 (『中華若木詩抄』)
- ③ 【古文】「②」の解説  
 (『中華若木詩抄』)

個別の知識を問う小問(「之」の読み、訓点を施す、など)と同時に、**複数のテキストの読み比べを前提とした小問がいくつも出題**されている。①の記述について③を参考にその理由を具体的に書かせたり、③の空欄に当てはまる語句を②から抜き出させたり、②③から読み取れる人物像を選ばせたりするなど、問い方のバリエーションにも富んでいる。

## 7

# 現代文・古文・漢文の融合問題

## 現代評論の中に古文や漢文の一節が引用された問題

2019年 釧路公立大学 中期 大問2  
出典：大岡信『紀貫之』

紀貫之の歌の特徴について論じた現代評論が出題本文となっている。この出題本文の中に、『土佐日記』の一節(歌2首を含む)や、紀貫之の歌を中心に13首、漢文(賈島『漁隱叢話』『詩人玉屑』)の一節が引用されている。全14問あり、現代文、古文、漢文の内訳は以下のとおりである。

- 現代文(5問)：漢字、語彙、本文読解
- 古文(7問)：古典文法、古典常識、文学史、現代語訳
- 漢文(2問)：漢文句法、現代語訳

一つ一つの小問は、基礎的な読解力や文法知識があれば対応できるものである。しかしながら、**読解対象となる現代評論の随所に古文(和歌)や漢文が数多く引用されるので、この種の文章を読み慣れていない生徒は、論の展開を追いながら読み進めていくことにつまずいてしまうこと**も考えられる。

この「個別試験(二次試験)での動向」で取り上げたのは「国語」として出題された問題であるが、「小論文」や「総合問題」では、共通テストの特徴として先に掲げた「①実用的な文章」「②複数の文章の読み比べ」「③図表などの非連続型テキスト」が出題されることが、既に定着しているといっていよう。また、共通テストで記述式問題が見送りになったとはいえ、個別入試、特に国公立大学の出題形式が、記述・論述式中心であることは、これからも変わらないと思われる。

